



2か月ごとに国立環境研究所（NIES）の災害環境研究の“いま”をお伝えます。

よろしくおねがいます！

右の写真は災害環境研究に関わるNIESの職員たちです。
様々な専門分野の研究者が協力して、研究に取り組んでいます。
来年度からは、環境創造センター（三春町）を拠点とし、よりいっそう
地域に根ざした研究活動を行っています。今後ともよろしくお願いいたします。



お知らせ

H28.2月 「環境創造センター出前講座（仮）」（一般向けの研究紹介）の開催（南相馬市予定）

最近の動向

H27.10月 環境創造センター（三春町）本館開所式

環境創造センター環境放射線センター（南相馬市）開所式

[第43回環境システム研究論文発表会](#)にて

企画セッション「復興自治体における環境創生に関する社会実装研究」を開催

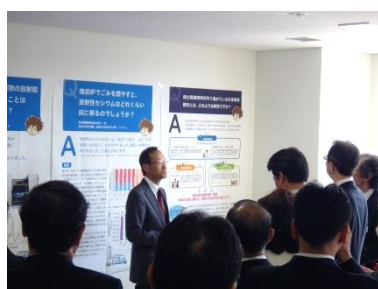
11月 JAEA主催「[研究成果報告会-ふくしまの環境回復に係るこれまでの取組-](#)」において基調講演
（研究総括：大原利眞）とポスター発表（玉置、平野、秋山、藤原）

[原子力エネルギーに関する日仏委員会](#)にて研究成果を報告

[福島県避難指示区域内外の昆虫群集を比較した研究論文](#)を発表（吉岡明良ほか）

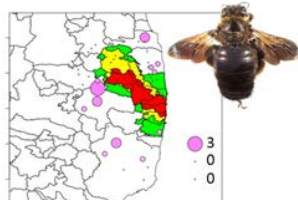
12月 災害環境研究セミナー「福島における地域社会の今・これから」を開催
（講師：今井照氏（福島大学 行政分類学類教授））

[三春町広報紙「広報みはる」12月号](#)に特集記事を掲載



大原研究総括からNIESの取り組み説明
（環境創造センター（三春町）本館開所式）

避難指示区域内で明らかに少ない分類群



キムネクマバチ

昆虫群集調査に関する研究結果
の一例（吉岡研究員）



福島の地域社会のこれからを語る
今井氏（災害環境研究セミナー）

環境創造センター始動！

来年度からNIESの福島支部が設立される
環境創造センター（三春町）の本館開所式が行われました。
当日はNIESからも研究員が参加し、活動の紹介を行いました。

この環境創造センター本館では、環境回復に向けたさまざまな研究を
福島県が行います。来年3月には研究棟と交流棟が完成し、研究棟
にNIESの福島支部が開設される予定です。

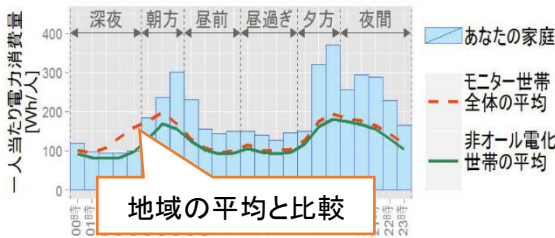
当紙でも進展をお伝えしていきたいと思っておりますので、おたのしみに！



PG2-環境創生研究プログラムの紹介

～自治体と協力して新しいまちづくりに貢献します～

① タブレットによる地域の情報の「見える化」を通じた新たな絆づくり



① 家庭の電力の消費例(時間ごと)

② 家庭でのタブレット利用の様子

③ タブレット講習会の風景



見える化をすると何の役に立つの？



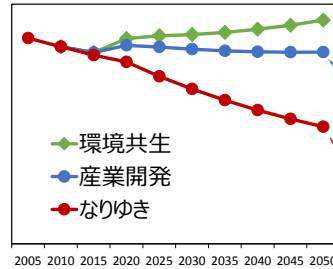
例えば、電力の使用状況を「見える化」することで、各家庭の電気代の節約だけでなく、地域全体の省エネにも役立ちます。また、地域の色々な情報をみんなで教え合うことで地域の絆を深めることもできます。

② まちの特徴を生かした総合計画づくりを支援



ふせん紙に、まちが将来どうなってほしいかを書いて地図にはっていきます。

① 中学校で将来のまちづくりを考えるワークショップ



環境産業と住環境の整備で人口回復

産業を増やして人口を維持

少子高齢化で減少

② 将来の人口シミュレーションの例



復興計画やまちづくりの計画はどうやってたてるの？



地域の人口や環境と住居や職場の将来をシミュレーションし、環境を活かした発展に役立つ取り組みをしらべています。地域に住む方々の将来についての意見をまとめ、計画に反映することも大事です。

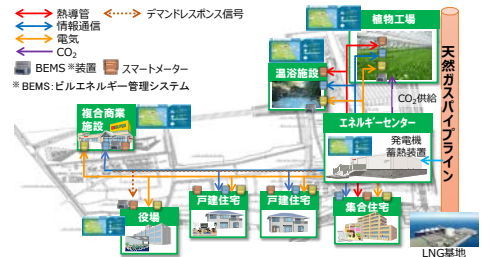
③ 地産地消を実現する分散したエネルギーシステムの導入を支援



① 分散したエネルギーシステムを既に導入している地域を調査



② トマトを栽培する野菜工場が熱エネルギーをどれくらい使っているかを調査



③ 自治体・企業と連携し復興地域にエネルギーシステムを導入する計画の例



分散型のエネルギーを導入する効果は？



低エネルギー価格や災害に強い安定したエネルギー供給によって、地域の魅力を高めます。さらに、これまで利用されなかった排熱や再生可能エネルギーを活用することでCO₂排出削減などの環境効果も期待できます。